



人工乳房製作で技術と元気を提供

HELLO TOMORROW JAPAN ORDER BODY LAB
代表、歯科技工士 織田 静香

「第4回女性起業家大賞」スタートアップ部門優秀賞に輝いた織田さんに、仕事に対する思いや今後の抱負などをお聞きしました。

織田さんが代表を務める「HELLO TOMORROW JAPAN ORDER BODY LAB」は、乳がん手術で乳房を摘出した患者向けの人工乳房をはじめ、手や足、指、耳などエピテーゼの製作を、カウンセリングからアフターサービスまで一貫して行っています。患者さんが物理的に良くなるのはもちろん、生き生きとした生活を送れるよう心のケアも忘れません。



表彰式後、贈呈された盾とともに

——受賞していかがですか

乳がん手術で乳房を摘出した患者向けの人工乳房など、さまざまな技術があることを多くの女性に知ってもらい良い機会となりました。また、応募にあたりビジネスプランを再度描いたことで、自分自身を見つめ直すことができ、感謝しています。

——創業のきっかけは

歯科技工士として働いていましたが、ある時、人工乳房を作る会社を知りました。人工乳房の製作は、女性だからでき、女性のためになる仕事。そして、女性としての私自身が生かされると感じ、やることを決意しました。この会社で2年間修行して技術を身に付け、その後1年間の準備期間を経て起業しました。

——日本では乳がん罹(かか)る女性が多いですね

日本女性のがん罹患(りかん)率は乳がんが最も高く、25人に1人、年間4万人が手術を受けています。欧米に比べ15歳も若い45歳での発病がピークと、年々若年化している状況なのです。がんと闘い、そして手術ということだけでも十分苦しいのに、その上乳房を失うということは、想像もできないほど肉体的にも精神的にもダメージを受けるはず。温泉に行けなくなったり、外出したくなくなるなど、心の傷も大きいと思います。

でも残念ながら、こうした術後の悩みを抱えて生活している方々に対するサポートは万全とは言えません。エピテーゼを製作している会社は全国で20社程度、人工乳房を製作しているのはそのうち半分以下です。

物理的に良くなることにプラスして、心が元気にならなければ、「治った」とは言えないのではないのでしょうか。私は一人でも多くの患者さんに人工乳房をはじめ、エピテーゼ技術を知ってもらい、患者さんに選択肢を増やしてほしいと思っています。技術の提供とあわせて、患者さんの心をサポートしたいと考えています。

——製品の特徴は

人工乳房は作り方によって5万円台から200万円を超えるものまであります。種類・価格帯を幅広く設けることで、患者さんのさまざまなオーダーに応えられる体制を取っています。

当社の製品は、医療用シリコンを使用しており、柔らかく肌の質感に似せて作ることや、乳房や患部残存の形状、肌の色、柔らかさなどを忠実に再現することが可能です。お湯に浸かった部分だけをピンク色に変化させることもできます。



17年9月に行われた全商女性連名古屋総会にて、齋藤全商女性連会長より盾を受け取る

——カウンセリング重視だそうですね

患者さんのニーズを製品に生かし、より満足を高めるために、技術者としての自分が、自らカウンセリングを行っています。オーダーメイドの人工乳房を提供するために、患者さんと少なくとも3回はお会いしています。型取り、色合わせ、仮試着などの製作作業に加え、使用頻度や用途などの生活スタイルも考慮して作り上げていきます。作り上げた製品を患者さんに喜んでもらえたときが、何よりもうれしいですね。最初から最後まで全部私が1人で行うことで、どのようなオーダーに対しても完成精度を均一にした良い製作ができるという自負もあります。

カウンセリングでは、乳房を失った喪失感や術後の治療に対する不安、家族や主治医との関係、がんの転移、余命の話にまで至ることもあります。技術だけでなく、患者さんの悩みを聞いて、術後のQOL (Quality of Life) を高められる手助けをしていきたいと思っています。

——今後の抱負は

起業1年を振り返ると、収支はほぼトントン。設備投資などを考慮すれば、順調なスタートだと思っています。

今後は、私自身がかつと専門的な技術を身に付け、より良い患者さんの心のケアをできるようになるためにも、心理学の勉強をしたいと考えています。また、体との一体感や自然感をより追求した人工乳房製作技術の開発、技術の浸透・普及、患者さんへのトータルサポートの一層の充実など、まだまだやりたいことはあります。